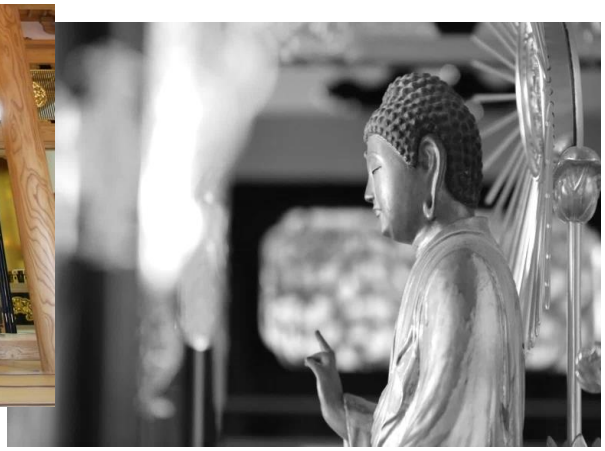
令和3年1月1日発行
第 １５号

じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺



「信心歓喜」

浄慶寺住職　　大塚 展彦

新年明けましておめでとうございます。昨年7月の豪雨災害により被災された方々、新型コロナウィルス感染症によって困難な状況を強いられている全ての皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

旧年中、ご門徒の皆様方におかれましては、不安な日々が続く社会情勢にも関わらず仏法の護持、浄慶寺の護持に多大なるご厚誼を賜り、誠に有難うございました。本年も引き続きご協力をお願い申しあげます。

さて、新しい年を迎えますが、私たちの生活をより明るくしてくれるような言葉をご紹介したいと思います。

それは「信心歓喜」という言葉です。

「歓喜」という言葉は、聞き慣れた言葉ですが、仏教では「信心歓喜」と「信心」という言葉が加わります。「歓喜」という“よろこび”には“信ずる心”が備わっている。“信ずる心”から“よろこび”が生まれる。という意味があります。しかしながら、“信ずる”とは、どのような事なのでしょうか。分かっているようで、分からない言葉です。

ある時、一人のお弟子がお釈迦様に「信ずるとは、どのような事でしょうか。私にも出来ますか。」と質問しました。お釈迦様は、「君が朝に目が覚め、夕に床につくまでの間に、君の眼に映り、手に触れる全てのものに〇〇様と語りかけ、合掌礼拝しなさい。または、そのものに名前を付けて語りかけなさい」とお答えになりました。

弟子は、「枕様」「厠様」「廊下様」などと語りかけ合掌礼拝する事を始めました。修行道場の庭にある大木の沙羅双樹には、「普賢様」と名付けてお世話をしました。托鉢から帰ると「大根様」「人参様」と語りかけ食事をいただきました。はじめは、いくらお釈迦様の教えといっても、少し面倒だった弟子でしたが、時を経るにつれ、〇〇様と語りかけ、名を呼ぶと言葉は聞こえませんが会話をしているような気持ちになり、友達や家族のようにも思えてきて、親しみが生まれました。
なぜだか、毎日、心がうきうきして喜びの気持ちが満ちてきました。

お釈迦様は、「信ずるとは、敬う心。心を通わせる心。感謝する心である。そうした生活の中に、喜びに満ちた日々があるのだよ」とお話しになりました。

私は昨年、境内の松に「久松」という名前を付けました。しだれ梅には、「梅宮」と名付けましたが、しっくりこないので、しだれ梅の品種名でもある「呉服（くれは）」と名付けました。
どちらの樹も毎朝、落ち葉掃除が大変ですが、名前を付けると心が通うようで楽しくなってきました。

私たちの一日には、名前を付ける事ができるものが沢山あるようです。南無阿弥陀仏も仏の名前です。名前を呼ぶと、そのものと会話が始まり、心が通い合う。そういう生活がある一年としたいものです。

体験談
－思い出の成人式－

浄慶寺 門徒　藏ノ下博之

令和2年1月2日、我が家は次女の成人式の準備で、バタバタとした年の始まりを迎えました。成人式当日に家族全員が揃う事ができなかったため、我が家は1月2日にお祝いをする事にしました。

次女にとっては、生涯一度の成人の日。晴着を着たものの、お正月の神社の混み様を考えると、さてどこで記念撮影をしようかと…

家族で相談していた時に、浄慶寺の山門が目に浮かびました。年始に亡き母、義父母、祖父母、そしてご先祖様に成人の報告もできる！全員一致で「そうだ浄慶寺に行こう！！」となりました。

世間では初詣といえば神社ですが、我が家はお寺にお参りする事に決定しました。そしていつの間にか人生の節目節目にお寺に行く事を忘れている事に気がつきました。

事が決まれば、動くのが早いのが我が家の良いところ。車を浄慶寺の駐車場に止め、立派な山門からお寺の佇まいを見ると、なんだか心が落ち着きます。故郷に帰ってきたような不思議な安心感。

家族で山門をバックに、記念撮影をしていましたら、本堂からひょっこりご住職がお顔を出されている事に気がつき、「本日は、成人の記念に晴れ着姿をご先祖様たちに報告しようと思い、お参りと記念撮影に伺いました」とお伝えしました。

ご住職も、喜んで下さり、笑顔で「時間はありますか？良ければお経をあげましょう」と。

家族一同、思いがけないお言葉に驚きと喜びを感じながら、本堂にて正信偈をあげて戴きました。そして住職からお話を戴き、嬉しさで涙が流れてきました。

伺ったお話では、七五三の祝いなど多くの慶事もお寺でされる地方もあるとの事でした。まさに節目はお寺に伺う事の大切さを学びました。その後ご本尊の前で、家族一同記念撮影。坊守さんもこられて、ご住職と坊守さんが臨時のカメラマンまでしてくださり家族での記念撮影。

次女だけでなく、家族一同、生涯の良き思い出になる幸せな時間と場所をくださり、心より御礼申し上げます。

本堂で通夜・葬儀ができます

お寺本堂での通夜・葬儀を希望する場合は以下の手順です。

①お寺（住職）に、ご一報をお願いします。（住職携帯電話：090-2318-3268）

②下記の何れかの葬儀社に『浄慶寺の門徒です。本堂でお通夜・葬儀を依頼します』とお伝え下さい。

◇みんせい葬祭 ・福岡市博多区大博町（担当者：竹内）
092-271-7422（24時間受付）又は090-1342-0006（24時間受付）

◇お葬式のあおやぎ・福岡市早良区飯倉（担当者：龍相＝りゅうそう） 092-865-4400（24時間受付）

※本堂でのお通夜の時間は、午後10時までとさせて頂きます

※お寺での宿泊は出来ませんので、ご了承ください。

※お通夜のみ、自宅か葬儀社斎場での執行で、葬儀は本堂での執行も可能です。

真宗（大谷派・東本願寺）への導き

≪第十五回≫

釈尊（しゃくそん）

釈尊（紀元前466～386とも566～486ともいわれる）は、インドのカピラ城の浄飯王を父として、摩耶夫人を母として生まれられました。

幼名を悉達多太子（しっだるたたいし）といいます。

青年時代のできごととして「四門出遊（しもんしゅつゆう）」という話が伝えられています。

太子は、城の東門を出たときに老人に、南門を出たときに病人に、西門を出たときに死者を送る葬列に出遇い、そこに「生・老・病・死」という人生の苦悩を感じます。そして、北門を出たときに静かに歩いている出家者に出遇われ、自分の生きていく方向を感じとられたのです。

そして、29歳のとき、城を出て5人の友とともに山に入って6年の苦行の生活をされました。しかし、その苦行では人生の苦悩は解決できないことを知り、ひとり山を下りてブダガヤの菩提樹の下に座って瞑想をかさねられ、その49日目の暁に人生の苦悩を解決する法（道理）にめざめられたのです。ときに、35歳、これを釈尊の「成道」といいます。

釈尊は、成道されましたが、その法を人に説くこともなく、しばらくそのよろこびにひたっておられました。

しかし、梵天（インドの神）の強い要請により、まずともに修行した5人のいる鹿野苑をたずね説法をされました。これを「初転法輪」といい、人類の歴史の上で真に救われる教えが説かれた最初の尊いできごとです。その後、釈尊は説法の旅を続けられ、舎利弗・目連なども弟子たちとともに帰依してその教団は、大きなものとなっていったのです。

しかし、クシナガラ城へ説法にむかう途中に病が重くなり、その城外の沙羅樹の下に身をよこたえ、「自らに依りて、他に依ることなかれ、法に依りて、他に依ることなかれ、自らをよりどころとし、法をよりどころとせよ」と説きのこされ、80年の生涯をおえられたと伝えられています。

親鸞聖人が、

　如来、世に興出したまうゆえは、ただ弥陀本願海を説かんとなり。

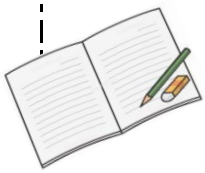
と「正信偈」にうたわれていますように、釈尊の生涯をつらぬいたものは、阿弥陀如来の本願の教えです。

如来所以興出世　唯説彌陀本願海

出典；真宗大谷派宗務所資料

☆お寺からのお知らせ☆

お墓参り・納骨堂へのお参りの際に、本堂にご参詣される方が増えてきました。
「お参りした時に、ちょっとつぶやきたい！」というリクエストをいただきまして、
『ぶつぶつノート』（仏仏ノート）を作成しました。
お参りの時に、自由にメッセージを残して下さい☆



行事予定

●修正会　1月10日(日)
13時30分から
●春彼岸法要　3月20日(祝・土)
13時30分から
●永代経法要　5月15日(土)～16日(日)
●盂蘭盆会法要　8月13日(金)～15日(日)
●秋彼岸法要　9月23日(祝・木)
●報恩講法要　11月13日(土)～14日(日)
●宗祖親鸞聖人のつどい
毎月28日・13時30分より

文芸欄

川柳

山口由利子

感謝のみ後は余白という美学

筆置いて心の襞に問いかける

振り向けば逃げる構えで路地の猫

銃口に花一輪を説くアート

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

坊守のつい～と

共命之鳥は、お互いが生かし生かされているという「いのちのつながり」を体現しています。
もちろん浄土の共命之鳥は、カルダとウパカルダのような愚かなことはせず、お互いのいのちを尊重しあって生きています。
それが仏の心ということです。この共命之鳥を通してコロナウイルスの事を考えますと、私たちはあらゆるものと繋がっていたということを改めて確認させてもらった事です。
命や生活をたくさんの人や物事に支えられているということです。

また、もう一つの視点では、誰一人として一人では生きていけないのに、
保身の心が勝ってきて、それゆえに人を排除したり非難したりするケースも見られるということです。
ウパカルダのように自分目線でいると、自分自身を苦しめることになるのです。
さて、坊守ツイート3回に分けて「ヨゲン鳥」と「共命之鳥」という「鳥」をテーマに書かせていただきました。一方は疫病をおさめて欲しいという願いが具現化された鳥、
一方は命の繋がりを教えてれた鳥、この鳥たちは、人間の抱える普遍的な願いや苦悩といった事を人々に伝える為に現れたのではないでしょうか。

浄慶寺　坊守　　大塚　麗

編集後記

新たな年になりました。今年もコロナに負けずに体調に気を付けてお過ごし下さい。皆様のご健勝を祈念しております。

じょうけい　第15号
≪発行≫
真宗大谷派 浄慶寺　大塚展彦
浄慶寺門徒会　川嶋正實
〒810-0063
福岡市中央区唐人町3-10-49
≪編集≫
浄慶寺寺報編集担当 塩川大一

ご命日のつどいへのお誘い

毎月28日には、午後1時30分より親鸞聖人のご命日のつどいを、本堂にて開催しています。

親鸞聖人のご命日が28日であります処から、この日に門徒がつどい、正信偈を、お勤めしています。
また、読経の練習や写経なども行っています。
どうぞ自由に参加してみて下さい。

時間 13:30～16:00頃まで　(※出入り自由です)